

令和8年度第1回一関市博物館協議会 会議録

- 1 会議名 令和8年度第1回一関市博物館協議会
- 2 開催日時 令和8年7月22日（水）午後2時から午後3時25分まで
- 3 開催場所 一関市博物館 研修室
- 4 出席者
 - (1) 委員 熊谷常正委員（会長）、砂金文昭委員（副会長）、小山奈美子委員、高橋弘寿委員、佐藤文子委員、金野敬之委員、千葉信胤委員、佐野修弘委員、菅原真利子委員、高橋あけみ委員、平澤広委員、佐藤仁委員、千葉順子委員
 - ※ 欠席者 千葉幸子委員、森英隆委員
 - (2) 事務局 時枝直樹教育長、菅田慶信博物館長、佐々木修路博物館次長、大衡彩織博物館副館長兼学芸係長、橋本美子博物館副館長兼庶務係長、相馬美貴子博物館主任学芸員、小味浩之博物館主任学芸員、椎野達也博物館学芸員

5 議 題

- (1) 令和7年度事業実績と内部評価について
- (2) 令和8年度事業の取り組み状況について
- (3) その他

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 なし

8 時枝直樹教育長挨拶

本日はお忙しい中、そして気温の高い中、一関市博物館協議会にお集まりいただきましてありがとうございます。ここにいらっしゃる皆様には、日頃より一関市博物館の運営に御支援いただいておりますこと重ねて感謝申し上げます。

先ほど、所属する機関の異動等の関係で学校教育関係者の3名の方に、新たに委員として辞令書を交付させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

教育委員会では昨年度、令和8年度から令和17年度までを期間とする第3期一関市教育振興基本計画を策定いたしました。一関市の最大の課題である人口減少への対処など、様々な市の課題に対応していくために、「郷土を愛し 自ら学び 未来を拓く 一関のひとづくり」と、教育の目標は人材育成であるということを目標に定めました。この目標を実現していくために、大きく分けて三つの分野があります。学校教育、社会教育、そして文化の継承ということで文化財の保存活用ということになります。それらを横断す

る取組の視点を設け、博物館については、文化財・文化施設の活用という観点から、全ての分野に関わるような取組をしております。具体的には、学校教育であれば、博物館は子どもたちの学びの場であるということになりますし、社会人あるいは生涯学習の視点から、博物館で一関のことを学ぶ、あるいは学び直すということによって、人口が減っていく中でも全ての年代の方が、この一関を愛し、そして自ら様々な学習をしながら一関の未来を考え、支えていくような人になってほしいという願いで設定したものであります。博物館につきましては、社会教育や文化施設の充実を通して地域全体で学びを支える環境作りという点で、運営をさせていただきたいと思っております。

さて、博物館の展示事業として、昨年度は特別展「千葉胤秀生誕250年 算額の世界」を開催したところでありますし、企画展としては400点の伝統こけしの寄贈を受けたことにも対応して「Oこけし店主Y氏の愛した昭和のこけしコレクション」のほか、2つの企画展を開催いたしました。本年度に入りまして春の初回の企画展では、「Museum Bird—資料の中の鳥とりどり—」ということで、博物館が所有する資料の中で鳥が描かれたものや形どられたものを、ジャンルを超えて紹介をさせていただいたものを行っております。現在は「熊野信仰と一関—海からやってきた神様—」を開催しております。国の重要無形民俗文化財に指定されている室根神社の特別大祭のまつりバ行事が本年10月に開催されることもあり、熊野信仰の視点から、当地域の文化が海との繋がりの中で、いかにして形成されたかを紹介する内容となっております。お時間があれば展示説明会にも参加いただければと思っております。

また、本年度も特別展及び企画展をそれぞれ計画しているところですので、御協議いただければありがたいなと思っております。

これら展覧会のほか、各種講座や体験活動など、教育普及活動を一体的に展開しながら、社会教育施設の持つ役割を果たすべく、市民の学びの機会の提供と学習活動の支援に努めてまいりたいと思っております。

そして本年度は、骨寺村荘園が中尊寺の経蔵別当領となって900年の節目を迎えております。これを受け、教育委員会の骨寺荘園室が中心となって様々な記念行事を行っております。本日、案内パンフレットを配付させていただきましたが、8月29日の土曜日にSWS東日本シビックホール一関で当館長の菅田館長を講師に900年記念事業講演会とパネルディスカッションを企画しております。総合司会には「5きげんTV」や「やさいの時間」に出演しているタレントの渡辺裕太氏にお願いし、盛り上げたいと思っておりますので、皆様にも是非足を運んでいただければと思っております。

本日は本年度第1回目の博物館協議会であります。具体的には昨年度事業の実績、本年度の事業の実施状況について説明させていただきますので、皆様から忌憚のない御意

見をいただいて、本年度の博物館運営に役立ててまいりたいと思っております。

限られた時間ではありますが本日はどうぞよろしくお願いいたします。

9 誉田慶信博物館長挨拶

日頃から委員の皆様方には、一関市博物館に対して多大なる御支援、御厚情をいただきまして厚く御礼申し上げます。

一関の歴史と文化を調べる際に訪れる場所として、その地域の歴史と文化・知識が集約されている博物館ではないかと思えます。したがって、地域の文化をどれだけ吸収して、新しい情報を市民の方に提示できるかというような使命を持っている所だと私は考えております。

文化財、あるいは歴史資料等が見つかっていても、それをさらに検討し、新しい価値をどれだけ見出せるかということは、とても大切ではないかと思えます。常に日々自分たちで研鑽を積んで、そして、勉強していくことが大事だと思います。先ほど教育長から話がありましたが、博物館は社会教育活動の重要な役割を担っておりますので、学校の先生方も含めて市民の方の御協力と御支援をいただければと思っております。

7月19日に企画展「熊野信仰と一関一海からやってきた神様」の中で講演会を開催しました。新聞等で御存じの方もいらっしゃると思うのですが、100人近くの聴衆が参加しました。最近の博物館では例を見ないくらい多くの方が講演を聞きに来てくださいました。それだけ地元の方が身近な問題、身近な文化について興味を持っているということに改めて感じたところです。地元の方が興味関心を持っていることを私たちが敏感に感じ取っていくことが大事なのではないかと思っています。

本日は、日頃からお気付きになっていることについて、忌憚なく御教示いただきまして、私達を導いてくださるようお願いしたいと思えます。

どうぞよろしくお願いいたします。

10 協 議

(1) 令和7年度事業実績と内部評価について

資料「協議1」に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委 員 資料4～11ページの展覧会に関して、資料点数の記載があったりなかったりするもので、統一し記載していただきたい。

写真撮影可の展覧会はほかの博物館でも多くなっている。企画展2では撮影禁止としていたが、撮影をしたい方は多いと思うので、撮影可能なエリアを設けるなど、ニーズに応じていくのもいいと思う。

資料12、13ページの古文書講座について、初心者講座はあくまで初心者に合わせた内容にするべきだと思う。古文書講座は定期的に実施し、興味がある方

に参加してもらえるとよい。本当は、高校で昔の仮名文字だけでも教えるカリキュラムがあればいいと思う。聞いたところによると一部の高校で道德の時間に取り入れているところがあるようだ。恐らく古文書を読める人は日本人の1%にも満たないといった現状、是非子どもたちが古文書に興味を持てるような工夫を博物館でもしていただきたい。

体験学習について、これ以上できないほど実施していると思う。あとは広報が課題。SNSはやっていないのか。市で行っているメール配信に同調するなど、候補はあるので、担当者を決めて広報をした方がよい。

事務局 掲載する資料点数については今後統一し掲載したい。

撮影に関しては作者が亡くなられてから70年以上経過しないと著作権の関係で本人や遺族から許可をとらなければならない。企画展2では250人以上の工人本人や遺族から許可をとることは難しかったことと、撮影可能なコーナーを作ってもほかのこけしが映り込んでしまうことから諦めざるを得なかった。展示資料数は436点であった。

古文書関係については、子どもたちが興味を持てる工夫ということだが、初心者向け講座を今後考えさせていただきたい。

広報について、Facebookは取り入れている。市の広報担当課にも確認しながら進めていきたい。

委員 資料の撮影でなくとも、造作物を設置し、例えば顔が入るような顔出しパネルを作り記念撮影をするなど、ここに来ましたよということが分かるものが欲しいと思う。本物を撮ることが難しいことはわかるし、予算の関係もあるので、必ずやれということではない。できる範囲で何か、例えばポスターの前で写真を撮れますなど、それだけでもいいかもしれないので何か考えていただきたい。

委員 撮影の可否は、博物館の判断で決めていいと思う。

世界の情報交換の場というところ、SNSが一般的になっている。例えば高校生や一関工業高等専門学校の学生を巻き込むと、面白いアイデアが生まれるのではないかな。

あとは職員の数が少ないので、優先順位を考えて取り組んではどうか。

委員 資料6ページの燻蒸について、燻蒸を受け入れる施設が無いとなると、今後どうするのか。

事務局 当館では毎年行っている燻蒸の薬剤と、緊急時に依頼する他館で使用している薬剤の種類が異なる。当館の燻蒸で使用する薬剤は問題ないが、他館で使用している薬剤が製造中止となってしまったので、緊急時の対応が難しくなると

いう意味で資料に記載した。

委員 15ページの「第24回和算に挑戦」の参加者は495人で少ないと説明があったが、多いように思う。なぜなのか。

事務局 過去と比べて少ないということ。以前は1,100人を超えた年もあった。一般参加者はほとんど変わらないが、学校で取り組んだ場合、全員分ではなく厳選して送ってくるところが出てきているので、以前より少なくなっている。

委員 21ページの大槻家資料保存活用事業について、重要文化財だが、修復や研究含めた事業に対してなにか補助があったのか。

事務局 重要文化財に関しては、修復の場合だと、一般的には50%補助だが、当市は加算されるものがあるが65%の補助だった。

委員 一関古文書に親しむ会は古文書を学ぶ講座の受講者有志で結成され、長年活動していたが解散したと聞く。団体は高齢化によって終息してしまうので、講座の受講者から募って個人ボランティアとして活動をしていただくことを考えてはいかがか。

委員 一関古文書に親しむ会は、平成4年に発足、令和5年に解散し、その後はボランティアとして博物館の資料の整理に携わっている。最近2人が年齢的なことで辞められたが、新たに2人が勉強したいと加わってくれた。一人でも多く仲間が増えれば良いと思う。

委員 古文書に関しては後継者を育てることがすごく大切だと思っている。初心者講座を開き、後継者をなんとしても育てなければと思う。

古文書ばかりだけではない。若者を取り込んでいかなければ団体の存続は難しい。

委員 広報に関して、それぞれの講座参加者が、何の広報媒体を見て参加したか把握しているのか。たとえば二次元コードをチラシに載せ、気軽に回答できるようにすれば傾向をつかめ、参加者も増えるのではないか。

事務局 過去にアンケートを取ったこともあるが、あまり把握していなかった。今後は参加者から話を聞くなどしたい。

(2) 令和8年度事業の取り組み状況について

資料「協議2」に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 福井県の小浜にある福井県立博物館に行く機会があった。小浜藩は杉田玄白の出身で、解体新書など蘭学に関する資料を展示している。

市民が蘭学の研究会を組織し、博物館のなかでいろいろなイベントを開催し、研究活動に積極的に参画していた。そこを比べると、一関市の場合は市民ベ-

スの広がりが少し弱いように見受けられる。

研究報告会などを契機に、市民が自発的に蘭学研究に取り掛かれるような環境・雰囲気づくりを検討していただきたい

(3) その他

全体に対して意見等を求めた。以下、意見等。

会 長 一関市博物館は職員数に対して、調査研究、教育活動といった様々な事業を実施している。だからこそ、スクラップアンドビルド、整理することが必要だと思う。

古文書分野では世代交代が起きている。教育活動などを見直し、後継者を1人ずつでも確実に増やしていけるような人材育成をにらんだステップアップ講座を体系化していったらどうか。

事務局 教育普及活動に対する視点は理解した。行政評価、予算、学芸員の育成についても考え、できるところから取り組んでいきたいと思う。

委 員 市民から資料相談や先祖について調べているといったような相談は年何回くらいあるか数を把握しているのか。

事務局 寄贈・寄託で30件に届かない程度。それ以外は学芸員1人につき年に10件程度か、特に数は把握していない。

委 員 そういった相談も教育普及活動の一環であり、かなりの時間を要することなので、どれだけ相談を受けているかは把握しておくべき。

11 担当課 一関市博物館